

好きから広がる児童・生徒の可能性

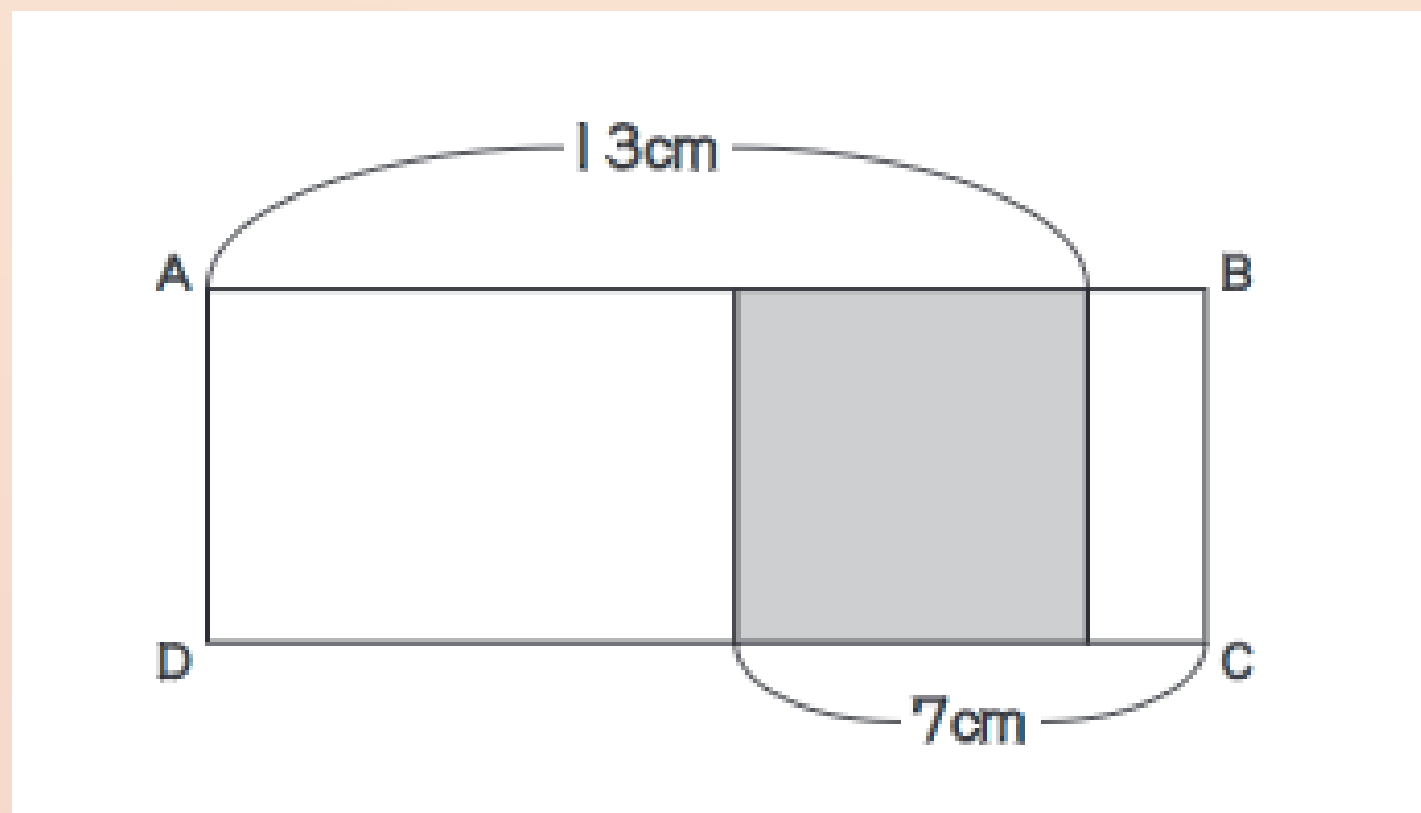
福井県教育庁義務教育課 主任 鈴木 留実

皆さんの好きなこと、得意なことは何ですか。

福井県では、児童・生徒のために理科や算数・数学の関心を高める「ふくい理数グランプリ」を開催しています。理数グランプリでは、理科や算数・数学を好きな児童・生徒が3人1チームで参加し、授業で学んだことをもとに、実生活に関連した課題に取り組みます。小学校は理科、算数部門に分かれてそれぞれの問題に取り組み、中学校は理数部門として理科、数学の合計で競います。新型コロナウイルス感染症対策のため、予選として行うチャレンジステージは個人で問題を解き、3人の合計得点で競います。問題を解いた後に友達と確認し合う姿や解答例に見入る姿、学校で問題について質問する姿から、夢中に取り組むことの尊さを感じます。

本選では3人で相談しながら、問題に取り組みます。3人寄れば文殊の知恵。1人では思いつかなかった考えが生まれ、思考が進んでいきます。課題への迫り方について考え、規則性を見つけるなどして答えを出し、自分たちの解き方をプレゼンテーションするところまでが課題です。私たち大人が多く時間を費やしてもなかなか解けないような問題を、限られた時間の中で解くことのできる児童・生徒が実際にいます。今後の可能性や将来がとても楽しみです。では、みなさんも令和4年度小学校の算数部門チャレンジステージの問題に挑戦してみてください。

(問) 長方形ABCDで色のついた部分は正方形となっています。このとき、長方形ABCDの周りの長さを求めましょう。



児童・生徒が好きなことや得意なことは、一人一人異なります。理数グランプリは、理科や算数・数学が好きな児童・生徒がきらきらと輝くことのできるイベントです。毎日の学校生活でも、児童・生徒がきらきらと輝く場面に出会えたときの幸せを感じることができます。